

社会貢献活動

経営理念である「創造 貢献」における「社会への貢献」の精神に基づき、さまざまな活動を実践しています。

東京災害ボランティアネットワーク

直下型地震が東京を昼間襲った場合、317万人を超える帰宅困難者が発生するだろうと言われています。カシオは、この帰宅困難者が徒歩で帰宅できるルートを確保する活動である東京災害ボランティアネットワーク主催の「2003年度市民による防災訓練～帰宅困難者対応訓練～」に参画しました。

本社ビルを帰宅ルートの第一番目の拠点として開放し、多くの参加者に帰宅拠点の一つとして認識いただくと共に、感謝の言葉もいただきました。緊急時に多くの方々のお役に立てることを願い、今後も継続して訓練に参画していきます。



■対応訓練の様子

「第4回イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」プロジェクト支援

G-SHOCK&Baby-Gは、1994年に日本で開催された「国際イルカ・クジラ会議」以来、アイサーチ・ジャパンと世界のイルカ・クジラに関する教育・研究活動をサポートしています。10年目を迎える2004年は、「第4回イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」プロジェクト～FEEL THE TIME OF NATURE～として、かけがえのない自然との出会い＝「イルカ・クジラ・ウォッチング」にフォーカスします。そして、日本におけるより良いイルカ・クジラ・ウォッチングの実現に向けた取り組みをサポートするためにG-SHOCK&Baby-Gの売上の一部を寄付しています。



■「イルカ・クジラ・エコリサーチ・ネットワーク」モデル

献血

毎年2回(夏、冬)、本社ビル前公開広場で、東京都赤十字献血センターと東京馬場先門ライオンズクラブとの共催により、献血を実施しています。献血者には、カシオ社員だけでも毎回100名以上で、献血ルーム以外では、最近になく多い人数と主催者からも驚きの声が上がりました。



また、羽村技術センターは、永年の献血活動の功労として、「金色有功章」を受章しました。これは日本赤十字社が継続的に献血に協力した個人・団体に対して感謝の意を表すために行っているものです。今回、羽村技術センターが受章した理由は、活動年数20年以上の献血団体に対する表彰です。

羽村技術センターでは、年2回、構内に献血車を2台設置して献血を行っており、毎回120～130名の方々にご協力をいただいています。



■金色有功章

カシオ科学振興財団の活動

財団法人カシオ科学振興財団は、1982年に、我が国の学術研究の発展と振興に寄与するために設立され、事業として①研究助成、②海外派遣助成、③研究会助成を実施しています。研究助成は「特に若手研究者による萌芽的な段階にある先駆的かつ独創的研究を助成すること」を主眼に毎年40件程度行っています。その他、海外派遣助成、研究会助成を年間10件程度行っています。2003年度は、研究助成として合計40件、海外派遣助成・研究会助成併せて18件、総額55,000千円行いました。



■研究助成金贈呈式の様子

社員の外部団体における講演

2003年6月、(社)消費者関連専門家会議(ACAP)の招聘により、品質環境センター大塚室長が「カシオのグリーン商品の取り組み」というタイトルで約2時間の講演を行いました。

燃料電池の標準化委員会参画

燃料電池の標準化を定める「マイクロFC標準化委員会」に参画し、標準化を推進しています。

カシオグループの社会貢献活動一覧

カシオグループの社会貢献活動は下表の通りです。

■国内での社会貢献活動

事業所・拠点名	活動	内容	参加人員	開催日
甲府カシオ	クリーンアップ・デイ	工場および近隣公共施設の清掃	117人/94人	2003年6月/12月
山形カシオ	地域清掃	市主催マラソン大会コース周辺清掃	6人	2004年2月
カシオマイクロニクス	クリーンアップの実施	工場周囲の歩道清掃	契約業者への委託	毎週月曜日
	クリーンアップの実施	工場周囲の清掃	社内100人	2003年10月
本社	省エネ事例発表会	自社の省エネ事例発表	社内・外150人	2003年2月
	国際交流・理解の増進	社団法人 日本経済青年協議会依頼に基づき、タイ国(企業経営グループ)青年との国際交流	総数28人	2003年7月
カシオテクノ	地域清掃	本社建物周辺の歩道清掃	3～5人 当番制	毎日(休日・雨天を除く)